



## 2024年7月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年12月11日

上場会社名 株式会社シルバーライフ  
 コード番号 9262  
 代表者（役職名） 代表取締役社長  
 問合せ先責任者（役職名） 取締役管理部長  
 四半期報告書提出予定日 2023年12月11日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

URL <https://www.silver-life.co.jp/>

（氏名） 清水 貴久  
 （氏名） 増山 弘和 （TEL）(03)6300-5629  
 配当支払開始予定日 —

（百万円未満切捨て）

## 1. 2024年7月期第1四半期の業績（2023年8月1日～2023年10月31日）

## （1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年7月期第1四半期	3,356	11.3	245	0.2	282	△2.4	177	△3.1
2023年7月期第1四半期	3,015	12.4	245	144.3	289	118.0	183	94.5

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年7月期第1四半期	16.36	16.19
2023年7月期第1四半期	16.95	16.72

## （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年7月期第1四半期	9,299	5,930	63.8
2023年7月期	9,562	5,916	61.9

（参考）自己資本 2024年7月期第1四半期 5,930百万円 2023年7月期 5,916百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年7月期	—	0.00	—	15.00	15.00
2024年7月期	—				
2024年7月期(予想)		0.00	—	15.00	15.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年7月期の業績予想（2023年8月1日～2024年7月31日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,550	8.9	435	4.2	529	4.3	345	8.6	31.82
通期	13,100	6.8	760	13.4	950	10.7	620	2.9	57.18

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2024年7月期1Q	10,842,800株	2023年7月期	10,842,800株
2024年7月期1Q	422株	2023年7月期	422株
2024年7月期1Q	10,842,378株	2023年7月期1Q	10,796,940株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(持分法損益等)	7
(セグメント情報等)	7
(1株当たり情報)	7
(重要な後発事象)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルスが第5類に見直され、経済活動の正常化に向けて緩やかな回復の継続が期待されます。しかしながら、ロシア・ウクライナ情勢に起因するエネルギー・原材料価格の上昇、インフレ抑制を目的としたアメリカの政策金利の引き上げなど、依然として不透明な状況が続いております。

当社の属する高齢者向け配食サービス市場においては、急速な速度で高齢化が進み、2025年には団塊の世代が75歳以上となりピークを迎えることから、今後においても拡大が予測されます。しかしながら、直近では、新型コロナウイルス第9波の影響により高齢者の入院者数が増加するなど不安定な状況が続いております。

高齢者施設向け食材販売市場においては、食材費・光熱費等の高騰や人材不足に伴い、経営難に陥り倒産する高齢者施設が増加しております。そのような中、コスト削減の一環でサービスの外部委託が増加しており、高齢者施設向けの食材サービスのニーズは高まっているものと考えております。

冷凍弁当における販売市場においては、既存企業のほか新たに参入する企業が増加しており、競争が激化しております。そのような中、ECにおける販売やEC以外の小売り店における販売が増加傾向にあり、市場全体が注目を集めております。共働き世帯や単身世帯が増加しているなどの社会的なニーズに加えて、企業による味や栄養面での努力、食材ロスの観点から必要な時に必要な分を使用できるという利点を背景に、さらに市場は拡大傾向にあるものと考えております。

このような状況のもと、FC加盟店においては、出店数を増加させるため、FCオーナー募集広告や説明会の強化等の取り組みを行いました。また、原材料価格や人件費の上昇に伴い、2023年9月より3%の卸価格の改定を実施しました。

高齢者施設等においては、冷蔵食材から利便性の高い冷凍食材へ切り替わっている傾向にあり、営業活動は、冷凍食材を中心とした新規営業及び既存納入先の冷凍食材への切り替え営業を進めてまいりました。特に、「こだわりシェフ」よりもお手頃な価格である「おてがるシェフ」の需要が高まっていることから、積極的に営業活動を行ってまいりました。

直販・その他においては、ECを主体とした冷凍弁当の直接販売(BtoC)において、2023年10月より1個あたり20円の販売価格の改定を行ったほか、広告宣伝の有効活用や、WEBプロモーションによる積極的な販売促進活動を展開しました。

製造面においては、前期第4四半期より新規OEMの準備を目的として冷凍弁当の製造及びストックを行っていたため製造コストが増加してはいたしましたが、当第1四半期において新規OEMの計画が後ろ倒しとなったことに伴い、冷凍弁当の製造を抑えたことから当期製品製造原価が減少し、それにより売上総利益が上昇しました。

販売管理費においては、2022年10月より外部委託していた製品を一部内製化したことにより人件費及び運賃が増加しました。また、広告宣伝費等が増加したことに伴い、売上高販売管理費比率は高まりました。

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は3,356,639千円(前年同四半期比11.3%増)、営業利益は245,715千円(同0.2%増)、経常利益は282,912千円(同2.4%減)、四半期純利益は177,350千円(同3.1%減)となりました。

販売区分別の経営成績は、次のとおりであります。

#### ① FC加盟店

フランチャイズを展開しているFC加盟店の店舗数は、前事業年度末から「まごころ弁当」が3店舗減少、「配食のふれ愛」が9店舗減少したことから、当第1四半期における店舗数は12店舗減少し、958店舗となりました。

原材料価格や人件費の上昇に伴い、2023年9月より3%の卸価格の改定を実施しました。また、出店数を増加させるため、FCオーナー募集広告の強化、FC説明会参加者へインセンティブ付与、開業の負担を軽減した契約プランの提案を行いました。

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は2,194,720千円(前年同四半期比0.7%増)となりました。

#### ② 高齢者施設等

高齢者施設向け食材販売では、冷蔵食材である「まごころ食材」と冷凍食材である「こだわりシェフ」及び「おてがるシェフ」を展開しております。高齢者施設においては、冷蔵食材が一定程度の需要を維持しつつ、利

便性の高い冷凍食材の売上が増加しました。そのような中、「こだわりシェフ」よりもお手頃な価格である「おてがるシェフ」の需要が高まっていることから、積極的に営業活動を行ってまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は359,617千円(前年同四半期比11.7%増)となりました。

③ 直販・その他

ECを主体とした冷凍弁当の直接販売(BtoC)において、広告宣伝の有効活用や、WEBプロモーションによる積極的な販売促進活動を展開しました。さらに、原材料価格や人件費の上昇に伴い、2023年10月より1個あたり20円の販売価格の改定を行いました。

OEM販売(BtoB)においては、前期で獲得した新規取引先の売上が増加したことにより、OEM販売における売上は増加しました。

倉庫業においては、市場としては需要が非常に高く、市場に合わせて値上げを行いました。

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は802,301千円(前年同四半期比55.9%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産は前事業年度末より280,800千円減少し、3,298,684千円となりました。これは主に、現金及び預金が267,901千円減少したこと等によるものであります。

(固定資産)

当第1四半期会計期間末における固定資産は前事業年度末より17,546千円増加し、6,000,558千円となりました。これは主に、建設仮勘定が69,788千円増加し、建物(純額)が29,242千円減少したこと等によるものであります。

(流動負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債は前事業年度末より213,443千円減少し、1,539,338千円となりました。これは主に、未払金が85,295千円、未払法人税等が70,281千円、買掛金が33,862千円、株主優待引当金が21,946千円それぞれ減少したこと等によるものであります。

(固定負債)

当第1四半期会計期間末における固定負債は前事業年度末より64,524千円減少し、1,828,996千円となりました。これは主に、長期借入金が59,850千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産は前事業年度末より14,714千円増加し、5,930,909千円となりました。これは主に、利益剰余金が14,714千円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年7月期の業績予想につきましては、2023年9月11日付けの「2023年7月期 決算短信」で公表しました業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年7月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,507,524	1,239,622
売掛金	1,138,985	1,164,914
商品及び製品	420,316	402,022
原材料及び貯蔵品	45,642	42,751
その他	545,874	544,172
貸倒引当金	△78,858	△94,798
流動資産合計	3,579,485	3,298,684
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,036,051	3,006,808
機械及び装置（純額）	1,421,328	1,419,595
建設仮勘定	52,085	121,873
その他（純額）	849,775	844,363
有形固定資産合計	5,359,240	5,392,642
無形固定資産		
投資その他の資産		
その他	238,371	229,615
貸倒引当金	△14,278	△15,798
投資その他の資産合計	224,092	213,817
固定資産合計	5,983,012	6,000,558
資産合計	9,562,497	9,299,243
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	591,357	557,495
契約負債	8,681	8,181
リース債務	720	720
賞与引当金	-	8,787
未払金	564,476	479,180
1年内返済予定の長期借入金	239,400	239,400
未払法人税等	173,545	103,264
株主優待引当金	57,923	35,977
その他	116,677	106,332
流動負債合計	1,752,782	1,539,338
固定負債		
長期借入金	1,712,050	1,652,200
リース債務	2,042	1,861
長期契約負債	12,927	10,978
その他	166,500	163,956
固定負債合計	1,893,520	1,828,996
負債合計	3,646,302	3,368,334

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年7月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年10月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	730,286	730,286
資本剰余金	720,286	720,286
利益剰余金	4,466,578	4,481,293
自己株式	△956	△956
株主資本合計	5,916,194	5,930,909
純資産合計	5,916,194	5,930,909
負債純資産合計	9,562,497	9,299,243

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)
売上高	3,015,351	3,356,639
売上原価	2,116,480	2,249,621
売上総利益	898,870	1,107,017
販売費及び一般管理費	653,581	861,301
営業利益	245,288	245,715
営業外収益		
受取利息	3,244	2,979
受取補償金	39,279	35,702
その他	12,054	13,778
営業外収益合計	54,577	52,460
営業外費用		
支払利息	1,227	1,031
賃貸費用	4,623	4,786
貸倒損失	1,630	2,001
貸倒引当金繰入額	△454	4,029
減価償却費	2,590	2,516
その他	436	898
営業外費用合計	10,054	15,263
経常利益	289,812	282,912
特別損失		
固定資産除却損	13	1,079
特別損失合計	13	1,079
税引前四半期純利益	289,798	281,832
法人税、住民税及び事業税	97,698	94,711
法人税等調整額	9,056	9,770
法人税等合計	106,754	104,482
四半期純利益	183,044	177,350



## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

関連会社がないため該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当社は、食材製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	16円95銭	16円36銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	183,044	177,350
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(千円)	183,044	177,350
普通株式の期中平均株式数(株)	10,796,940	10,842,378
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	16円72銭	16円19銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	152,071	109,113
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。